

第19回 市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成25年8月28日（水）午後4時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（見上円山動物園長） ただいまから、第19回市民動物園会議を開催いたします。

中山委員からはご連絡をいただいておりますけれども、こちらに向かわれている途中だと思しますので、会議を始めさせていただきます。また、鈴木委員からは所用のため欠席というご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

2. 挨拶

○事務局（見上円山動物園長） それでは、開会に当たりまして、みどり環境担当局長の村山からご挨拶を申し上げます。

○村山みどり環境担当局長 皆さん、こんにちは。

みどり環境担当局長の村山でございます。

今回、今年度の夏までの来園者の状況についてご報告させていただきます。

中身としては、好調であります。ただ、ご承知のとおり、昨年12月からアジアゾーンがオープンしておりまして、比較する前年データからはぐっと上がりますので、今後は心して伸ばしていかないと目標の100万人にはなかなか届かないと考えられます。ただ、そうならないように、我々も努めていきたいと思っております。

そのほか、夏の主なイベント、ご意見が出ておりましたフェイスブックなどについてご説明させていただきたいと思っております。

それから、皆様方におかれましては、2年間にわたる委員の任期の最後の動物園会議になります。今まで、本当にお忙しいところをご参加していただき、また、貴重な意見をいただき、本当にありがとうございました。きょうも、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますが、最後に、お一人ずつからお言葉をいただきたいと思っております。いただいたご意見については、できるものとできないものいろいろあるかもしれませんが、できるだけやれるように、いろいろな施策に反映させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（見上円山動物園長） それでは、これ以降の会議の進行につきましては、金子委員長にお願いしたいと思います。

3. 議 事

○金子委員長 きょうは、このメンバーでの最後の会議ですので、しっかり議論できればいいと思っております。よろしくお願いいたします。

最初に、平成25年度の来園者状況について、木村課長からお願いいたします。

○事務局（木村経営管理課長） 経営管理課長の木村でございます。

まず初めに、来園者の状況等についてご説明させていただきます。

資料1をごらんいただきたいと思います。

月別の来園者数とその累積数の表でございます。平成17年度及び平成21年度から25年度までです。平成25年度は、昨日の8月27日までの数字でございます。

前回の5月28日の会議におきましても、ゴールデンウィーク期間の状況について簡単にご報告させていただいたところでございますが、改めまして、本年度の4月当初から現在までの状況についてご説明いたします。

左側の月別合計来園者数比較とあります表を見ていただきたいと思います。平成25年4月は6万3,370人、5月は13万4,584人、6月は11万7,092人、7月が9万8,812人、8月は、昨日までで13万8,783人でございます。

8月は、昨日の時点で昨年の8月31日までの状況より15%多くなっているところがございます。きょうを含めまして残り4日ございますので、きょうも天候が余りよろしくなく、週末までの天候が気になりますが、このままいけば、平成21年度の15万1,523人を超えてくれるのではないかと期待しているところがございます。

月ごとに見てみますと、4月は、3月下旬にホッキョクグマの双子を公開したことから順調に来園者数を伸ばしていたところですが、27日からのゴールデンウィークに入りまして、前半の連休4日間が全て雨に見舞われ、最高気温も10度に満たない日が全てであったなど、悪天候にたたられまして、最終的には前年度に比べての増加は3.5%にとどまってしまいました。5月に入りまして、連休期間中は雨と低温が続きまして、残念ながら、ゴールデンウィーク期間中の来園者数は、昨年度の平成24年度と比べても18%の減という結果に終わったところがございます。しかしながら、連休が終わりましてから天候に恵まれまして、これに合わせて持ち直しをしました。翌週の18日は土曜日でしたが、ちょうど桜が満開になりまして、1万1,529人が来園しております。これは、1日の来園者数としては、ゴールデンウィーク期間を除けば、これまでの最多を記録しました。

翌日も天候に恵まれまして、2日連続で1万人を超え、翌週の日曜日にも1万人を超えました。その結果、5月全体での来園者数は13万4,584人で、昨年度と比べまして48%増となりました。特に、5月7日のゴールデンウィークが終わって以降の来園者数は9万9,304人となりましたが、ここ10年間で最高となっております。

月が変わりまして、6月もこのような流れが続き、また、幸いなことに天候にも恵まれましたことから、11万7,092人となりました。これは、6月としては、これまでで最も多い来園者数です。

7月は、6月に比べますとやや天候に恵まれなかったことから、前年度比は26%の増にとどまっております。しかし、8月につきましては、先ほど局長からもお話がございましたが、これまでのところは大変順調に来園者数が伸びております。これは、この後の夏のイベントの実施状況のところでは触れますが、夜の動物園に多くのお客様がいらっしやっていることが大変大きな要因かと思っております。

4月から昨日までの累計来園者数は55万2,641人で、昨年の8月31日までと比

較しても20～30%以上多くなっております。平成24年度につきましては、局長からお話がありましたとおり、12月のわくわくアジアゾーンのオープン以降、来園者数がかなり大きく伸びております。年度が終わった段階でこの伸び率のまま終われるかというとなかなか難しいとは思いますが、ごらんいただいておりますように、これまでの来園者数につきましては、この10年間で最も多い来園者数を記録した92万人を超えた平成21年度と比較しましても、それに近づいている数字となっておりますので、この平成21年度を見据えまして、今後もいろいろな取り組みを積極的に進めてまいりたいと考えているところでございます。

来園者の状況についての報告は、以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、来園者につきまして、ご質問等があればお願いしたいと思います。

このままいくと、もしかすると100万人という声も聞こえそうですが、まだまだ難しいところですか。

○事務局（見上円山動物園長） 目標としては100万人を掲げておりますので、それに向けていろいろとPRはしていきたいと思っております。例えば、冬は、台湾のお客様が札幌に結構いらっしゃると思いますので、その観光客の方に向けて積極的にPRしていこうという考えもありますので、期待したいと思います。

○金子委員長 冬場は、アジアの方は多いのですか。

○事務局（見上円山動物園長） やはり、雪まつりの関係で海外の方が来られますので、こちらまで足を運んでいただければと思っております。

○牧野委員 夜の動物園がかなり好調ということでしたね。私どもも町内のお話を聞いたら、苦情ではないのですけれども、混んでゆっくり見られないので、もうちょっとゆっくり見たかったという声がありました。駐車場等の車はかなり並んでいましたね。

○事務局（木村経営管理課長） 車に関しましては、牧野委員を初め、地元の方にもいろいろと迷惑をおかけしたところですが、我々の想定以上のところがあったものですから、体制等を改めて整備して、なるべく近隣の方への影響を少なくするように対応させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

○牧野委員 例えば、夜の動物園だったら、円山競技場のところにとめられますね。そこを臨時駐車場として使えないのかといつも思っているのです。

○事務局（木村経営管理課長） 今回はお盆の時期だけだったのですが、ゴールデンウィークと同様に、ばんけいスキー場の駐車場を開放していただきました。しかし、遠いということで、思ったほど移っていただけませんでした。今おっしゃられたように、本来であれば、公共交通機関をというお願いをしているところですが、こういう状況でございますので、今いただいた意見も参考にしながら、どういう対応がとれるのかを考えたいと思います。今年は終わってしまいましたけれども、来年以降は積極的にいろいろなことを考えていきたいと思っております。

- 牧野委員 日中はいろいろなイベントがぶつかったりする可能性がありますけれども、夜になれば、ほとんどは使えますからね。
- 事務局（村山みどり環境担当局長） 円山球場に車が入れられなくもないところはあるのですけれども、芝があるのです。
- 牧野委員 競技場や野球場だったら、問題は全然ないですね。
- 事務局（村山みどり環境担当局長） 第2駐車場は使っているのです。
- 牧野委員 正面のところは使っておりませんか。
- 事務局（木村経営管理課長） 野球場そのもののところですね。
- 牧野委員 あちら側はいくらも止められませんからね。私の言っているのは、真正面の競技場と球場の舗装のところですよ。あそこは、夜だったらほとんど使うことはありませんね。
- 小山委員 競技場の使用は19時までです。
- 牧野委員 イベントなどがあれば当然難しいと思いますけれども、それ以外なら駐車場はほとんど使いません。
- 事務局（村山みどり環境担当局長） スポーツ部と相談をさせていただきます。
- 牧野委員 横の連携で使えるのであれば、夜の動物園だけでも使えよと思うのです。中が混むのかもしれないけれども、車の処理だけはできますね。
- 事務局（村山みどり環境担当局長） 今、前任の局長がスポーツ担当局長に異動しておりますので、相談してみます。
- 牧野委員 特に、ぱっと車が並んでしまうと、行く車なのか、止まっている車なのかわからなくて、一緒に並んでしまって、ひっかかってしまったという話を聞いているのです。それを少しでも防げれば、待っている人もスムーズに駐車場に入れると思います。
- 松浦委員 夜の動物園をすることで動物園側の負担やご苦労は物すごく変化するものですか。
- 事務局（見上円山動物園長） どちらかというと、動物のストレスの心配があるので、余り長い間続けるのはどうかということがあります。
- 松浦委員 去年と比べて頻度は多くなったのですか。
- 事務局（見上円山動物園長） 回数的には同じぐらいです。去年から、夜の動物園ができるように、常設のライトを設置しましたので、同じような回数ができるようになりました。それまでは、その都度、照明器具をレンタルしていました。
- 松浦委員 それだけ需要があるということで、来園者状況を高めていくために使えないものかと思います。でも、きっといろいろなご苦労があるのだらうと、お察しいたします。
- 事務局（見上円山動物園長） 職員自体もありますけれども、やはり動物に対するストレスを考えなければならないと思います。
- 金子委員長 ほかはいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子委員長 それでは、2番目の平成25年度夏のイベント事業について、説明をお願いいたします。

○事務局（小山調整担当課長） 調整担当課長の小山でございます。

資料2に沿ってお話しさせていただきます。

まず、入園者数は、8月9日から18日の間に7万436人で、前年比は25%増です。そのほかの日も約30%増でございます。

先ほど木村からも話がありましたが、天候にも恵まれましたし、夜の動物園ということで、入園者数の1万人超えが3日間ございました。うち、15日は、8月としては過去最高の1万3,269人となっております。

夜の動物園の状況でございますけれども、飼育展示課、経営管理課で定期的にミーティングやアイデア出しをしながら各回ごとのテーマを決めてやってきたところです。

7月19日は、『カルチャーナイト』で、市立大学の現役の学生がジャズギターを演奏いたしました。この日は4,015人の来園者でした。

7月20日は『ドキドキナイト』、この日は8,230人でした。また、7月27日は『シネマでカップルナイト』で、6,480人でした。8月3日は、『スペシャルお食事ナイト』で、動物たちに特別な餌をやりました。この日に、一旦の過去最高を記録し、1万965人でした。そのうち、夜も過去最高を記録し、16時半以降で5,729人です。

次のページに入園者数がございますので、こちらを参考にさせていただければと思います。

8月10日は『キッズナイト』で、8月15日は『ガールZOOナイト』です。先ほど申しましたように、この日の来園者数が1万3,269人、うち夜は5,970人で、過去最高を記録しております。

8月16日は、『マルヤマクラスナイト』でした。

17日は、雨でしたが、この日の来園者数は7,656人でした。24日が晴れたり、どしゃ降りになったりでしたが、8,147人です。8月24日現在で8月の累計人数を出しておりますが、平成21年度を超えております。

次に、Kids Zoo Townです。これは4回目になりますけれども、7月28日から3日間にわたって小学生を対象に職業体験イベントをいたしました。リピーターといえますか、参加が2回目以上の子が4割いるようなイベントですが、526人が参加しました。入園者数は、7月28日が4,140人、29日が2,597名、30日が4,199人で、それなりという感じでした。

(3) わくわく虫ランドは、世界の珍しい虫を集めたイベントです。8月1日から25日まで科学館センターで展示いたしました。これは、子どもに結構人気がありました。タランチュラはさわれませんでしたが、ヤスデなど、ふだん見られないような虫を実際にさわることができました。

(4) のZOOガーデンは、7月6日から8月31日まで、西門のそばで行われております。

しろくまカフェは、8月4日から18日まで、第1レストハウスで、しろくまラーメンのノースユナイテッドさんと果実倶楽部さんがリードをとって、テレビ北海道が放映しているアニメしろくまカフェとのコラボでグッズ販売をし、市内の有名店の食べ物を販売いたしました。

広報ですが、今、皆様にお渡ししました動物園だよりの夏号です。夏は夜の動物園ということで、しろくまカフェがオープンしますというような内容で、小学校等に18万部を配布しております。三つ折りのチラシですが、3回来ますと特典があるという案内をしております。

それから、新聞・テレビ報道ですが、新聞にも結構取り上げられましたし、テレビでは、7月5日にNHK札幌放送局を挙げての30分生番組がありました。また、8月15日にはSTVの夕方の「どさんこワイド」で取り上げられましたし、8月16日にはHTBの「イチオシ！」で夜の動物園としろくまカフェを取り上げていただきました。

また、地下鉄駅構内へのポスター掲出とマルヤマクラスの円山動物園ブースでチラシ、ポスターの掲出等をしております。

そのほか、先ほど牧野委員からお話がありましたけれども、車両についてです。ばんけいスキー場さんのご協力を頂戴しまして、15日から17日の夜の動物園の開催時にばんけい駐車場を使わせていただきました。8月15日には91台、16日に46台、17日に46台、3日間で183台でした。これについても、8月12日にばんけい夏祭りがありまして、その機会にも、夜の動物園ではばんけいスキー場の駐車場がありますというPRをいたしました。そのときは、マルヤマンが登場いたしました。

事務室におりますと、夜の動物園は、毎日やっているのではないかという感じで、きょうは何時までですかという問い合わせがありますけれども、夜の動物園が定着してきたのかなと思います。また、ホームページのアクセス数を見ると、夜の動物園のページへのヒット数が多くなっております。しかし、昼間並みに混んでいる状態のときもありますし、交通のさばき方もあるので、課題はあるのかなというふうに認識しております。

以上です。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、イベント事業について、何かございましたらお願いします。

夜の動物園は、先ほど見上園長から動物への負担についてのお話がありましたけれども、負担があるかないかを見るのはなかなか難しいですね。

○事務局（見上円山動物園長） どれだけやったら動物のストレスになるのかについては確かに難しい部分ではあります。しかし、おっしゃるとおり、毎日となると、職員の負担もあります。

○金子委員長 来年以降のことを考えると、今年並みくらいの感じですか。

○事務局（見上円山動物園長） 夏の夜の動物園ということになれば、9日か10日間ぐらいが限度というわけではないですけれども、ちょうどいいぐらいではないかと思えます。

○松浦委員 外部の方たちの協力を得て行った事業が幾つかありますね。そのときはどうなのですか。動物への負担というか、企画から大変に大変なのでしょうか。外から見ると、随分たくさんイベントが目白押しで、これで事故がなければいいなという印象を持ったくらい、次々とありましたね。

もう一つは、予想した人数が入っていたのかという点で、何かわかりますか。

○事務局（小山調整担当課長） まず、企画についてです。アイデア出しを職員間でやるときは、動物個体への負担を一番に考えたところがございます。その上で何ができるのかということでプラスアルファを考えます。『スペシャルお食事ナイト』や『ドキドキナイト』ではドキドキ体験は数多くやろうとしております。それぞれの個体にもよりますから私には判断できませんけれども、動物個体に対する負担はあったらと思うと思います。

ただ、例えば先ほど申しました、しろくまカフェやホテルネイル、サッポロ・ジャズフェスティバル実行委員会など、動物園を応援して下さる、あるいは、円山動物園を自分たちの発表の場としたいという持ち込みの話も割とあります。ゼロスタートで、こちらからどこどこに当たるといっても、天体観測は北大からお話がありますが、そういうことで園内の企画をしながら、同時並行でアイデアを外から頂戴するような状態です。

○中山委員 来場者の年齢のデータはとっているのですか。書いてある限りでは見た目の判断ですね。このイベントはこのぐらいの年齢層を狙っていて、実際に来たのはこんな感じだったというものはとっているのですか。このぐらいの年齢の方が意外と来ていたという結果が出たときに、本来の年齢層にも当然人気がある企画のときは、こちらは放っておいても確保できるので、こちらに注力できる告知なりが打てれば、もっと盛り上がるのだろうというデータがとれると思うので、そういうものはとっておられるのかという意味のご質問です。

○事務局（木村経営管理課長） その日ごとにそれぞれのテーマを決めておりまして、例えば、ガールZOOナイトであれば、女性が楽しめるような企画をして、来園を期待しております。しかし、実際に女性が何割いたかというデータはとっておりません。名前を書いてもらうことは実際にしておりませんので、そういう資料はありません。ただ、今おっしゃられたように、その結果や効果を感じてしかとれておりません。例えば、女性にはこれをプレゼントしますとあって、そのプレゼントの残り具合で意外と男性のほうが多かったのかということしか把握できておりません。

せっかくこういう形でテーマを打っているのですが、今後は、どういう形でテーマどおりにいったか、もう少し工夫が必要かがわかるようなやり方について考えていく必要があると思います。

○中山委員 とり方ですが、書いてもらうというのはすごくハードルが高いと思うのです。しかし、受け付けがあるパターンのときは、成人しているか、していないかでもいいですし、年配か若年層か子どもかというレベルのとり方でも、ないよりはいいのです。また、ネイルは意外と小さい子が来たということがあると思うのです。最近、小さい子もみんな

なおしゃれですから、ラッキーな層が意外と来たというときに、本来の年齢層に告知が打てるチャンスになると思うのです。

○事務局（見上円山動物園長） 期間中の幼児、小学生、中学生、高校生以上、65歳以上の高齢の方ぐらいの区分であれば、数字はそれぞれ押さえておりますので、もう少し突っ込みたいと考えております。そういう集計はしていないので、そういうことも含めて考えたいと思います。

○中山委員 女性だけで来た方やカップルで来た方というものがあると、告知やCMを打つときに便利だと思います。

○事務局（小山調整担当課長） それは、私どもも知りたいところです。

割とカップルが多いなという印象は受けるのですが、あなたはカップルですかというような実質カウントはしていません。

性別を書く、年齢を書くというのは難しいように思います。

○中山委員 書かせるのはしんどいと思うのです。こちらが勝手にとるほうがいいと思うのです。正確にとれなくても、表をつくって、正の字をつけていくぐらいで、ないよりも役に立つと思います。

○事務局（村山みどり環境担当局長） きょうの午前中に、毎週やっている役職者会議に出たのですけれども、今、中山委員がしていたようなお話をしておりました。つまり、ターゲットをどこに絞って、力の入れ方が足りないところがあれば、そこに力を入れていかなければいけない。我々は動物園ですから、経営という意識を持たなければいけないのではないかということをお話しました。しかし、そのとき、基礎データがないと、今どこに力が足りないのかわからないものですから、およそでもいいから捉えるというのは非常に参考になるので、これからの経営戦略に生かすことができるのだと思いますので、十分に考慮してやっていきたいと思います。

○事務局（木村経営管理課長） 今週の土曜日に最後の夜の動物園をやるのですが、その際には、皆さんにアンケートを配付しまして、そのデータについては、夜の動物園の来園者の傾向を整理するためにアンケートを予定しております。

○事務局（佐々木経営係長） ゴールデンウィークや夜の動物園など、全数ではないのですけれども、主要イベントには200ロットずつはとっております。ただし、アンケートに参加してくれる方の集計ですので、来ている方とイコールにはならず、どうしてもカップルが多くなるのです。ですから、しっかりとした比率は出ないのですが、それで統計をとるようにしております。

○石川委員 詳しくはわかりませんが、コンビニであれば、男性か女性かを先に入力して、10代、20代、30代、40代と入力しますね。そこまでいなくても、いろいろなイベントで自分は何十代にされたのかなと思うのです。男性か女性か、小・中・高校生か成人かでもいいのです。ずっとやるのは大変かと思うので、ピックアップして、1日だけでもやると結構わかってくるのではないかと思います。

○橋本委員 10回のうち9回まで進んでいるのですね。今のところ、3万9,593人です。これは延べ人数だと思うのですが、リピーターの人がどのくらい来ているのでしょうか。ずっと同じ内容だったら、果たしてこんなに来たのかと考えるのです。

今の話に関連して、ここにスタンプ3個でおいしいプレゼントとありますね。これは提出された方は結構いるのですか。

○事務局（小山調整担当課長） 31日までなので、まだ集計していません。

○橋本委員 31日になったら集計できるのですね。せめて、これに男性か女性か、年齢を書く欄があれば、ある程度のところはできたと思います。この三つの判を押している人たちの人数がどれだけでリピーター率が大分わかってくると思うのです。リピーターだけを相手にするやり方ももちろんありますが、新規顧客を引っ張り上げるのにどうするかです。一番わかりやすいのは、同じイベントを2回か3回続けてやるとすぐにわかるので、そういった工夫をされたらどうかと思います。もちろん動物への負担はわかりますが、10回全部ばらばらのことをやるのではなくて、2回ずつ5パターンでやるなどということでもリピーター率がわかると思うのです。決まった範囲の中でやるものですから、余りいろいろなことはできないと思いますが、せっかくやるのでしたら、そういった工夫もあるかと思います。特に、このスタンプ3個のものについては、今のお話を聞いていてもったいなくないと思いました。年齢と性別ぐらいは入れておいたほうがよかったなと思います。

○金子委員長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子委員長 続きまして、3番目のフェイスブックの活用についてお願いいたします。

○事務局（小山調整担当課長） 私から、資料がついていますが、画面をご覧になったほうがイメージが湧くかと思います。パワーポイントで説明させていただきます。

前回、5月末の市民動物園会議でフェイスブックについてのご提案がありまして、早速、ワーキングを立ち上げましょうということになりました。

6月に事務局で日程調整をさせていただいたのですが、なかなか日程がとれませんで、7月に、金子委員長、中山委員や職員等で、フェイスブック上でフェイスブック作成準備会を立ち上げまして、その仕様が今お手元にある資料3でございます。

できているのは、タイムラインと仕様です。

円山動物園はみんなの動物園であるという気持ちのある方で、円山一帯の魅力を市民、来園者目線でお互いに伝え合う、情報を共有し合うというイメージのフェイスブックです。今のところは非公開になっております。

当初の予定といいますか、前回のお話では、委員の改選があってからオープンという話だったと思いますが、今の委員のメンバーでつくり上げた一つの成果ですので、そのような形もよいのかなという話が準備委員会の中で出ておりました。ですから、今回の委員会でご承認をいただけたら、すぐにも公開できると考えております。

私からの報告は、以上です。

○中山委員 今現在は非公開で、発足からさかのぼって、よく写真があったなと思えました。動物園の歴史をひもとく状態までは本当に読み応えのあるだけの量の記事が投稿されていると思うのです。ですから、公開した後は、いかにフェイスブックを使う層、これから使う層が楽しく興味を持つページにしていくかが大事になってくると思います。

この間、わくわく蟲ランドに書いてあった園内の看板も結構話題になりましたね。すごくマニアックな人が書いたなというもので、ああいうものがここで読めたり、最新情報はここに行けば絶対わかるということを必ず載せたり、特徴のあるネット層が喜びそうな文章を書ける人、もしくは、書けるように、誰が更新していくのかというのが一番の焦点だと思います。

写真は大きく載りますし、今見た中でもすてきな写真がたくさんありましたし、これからも皆さんの協力でできると思うのです。このページは閲覧者も投稿できるようにするのですね。そうであれば、とてもたくさんの投稿で、人気になればなるほど、すごい速さで行くと思うのです。そうすると、管理者が認めた投稿と一般投稿がどのように組み分けされていくか、今は狸の皮算用ですけれども、将来的にはそんな悩みが出るというと思います。

今、準備の段階で、すごくすばらしい写真と記事が投稿されているので、この後、どういう方向に行って、誰が実行者なのかを決められたらいいと感じています。

○金子委員長 私からも補足させていただきます。

立派なものができ上がった気がします。過去の画像は、事務局からいっぱい入れていただきましたが、現在のものは、中山委員が言われたように、これから参加者がつくっていくことになると思います。フェイスブック自体は、双方向のコミュニケーションをする道具だと思いますので、こういうページがありますとどんどんアピールしながら、来園者やイベントを企画している方、動物園の中からもいろいろ発信していき、それに対する感想も入れていって、お互いで情報交換ができるようなページになっていけばいいなと期待しているところです。

ただ、誰がこれをやるのかということがあります。前回の会議の中でも、市民動物園会議でワーキングを立ち上げていきたいと思いますということでしたが、公開に当たっては、その辺の位置づけをきちんとしていかないと、動物園にご迷惑がかかってはいけないと思います。

規約等についてご説明をしていただいたほうがよろしいでしょうか。

○事務局（小山調整担当課長） 見える説明としては、動物園会議がフェイスブックづくりを提案し、有志にて作成、運営しているということです。組織である円山動物園へのご意見やご提案は、市役所の公式ホームページからお願いしますといたします。

改めまして、資料3をご説明させていただきます。

ネーミングは円山動物園+（プラス）です。

書いてあることは、札幌円山動物園に行ったり、これから行こうとする方が楽しみや感動を共有し、円山動物園と動物園にかかわっている人々、会社、団体の活動を応援し合うページです。

説明として、以降は基本データのところに載せているものそのままです。

- 金子委員長 フェイスブックで見られるものですね。
- 事務局（小山調整担当課長） そのまま転記しています。
- 金子委員長 下線部は見えないのですね。
- 事務局（小山調整担当課長） 下線部は見えません。下線は、私の説明上の強調です。
- 金子委員長 では、強調のところだけでも説明してください。
- 事務局（小山調整担当課長） わかりました。

市民動物園会議がフェイスブックづくりを提案し、有志によって作成、運営しております。市役所組織としての円山動物園へのご意見、ご提案は市役所の公式ホームページからお願いしますとなっております。

ここで、これはどうなのですかと言われても、組織としての円山動物園としては回答いたしません。そもそもの趣旨が上の情報に書いてあるもので、先ほど委員長がおっしゃったように、お互いに情報交換、コミュニケーションをして盛り上がっていくという趣旨のページでございますので、組織へのご意見は別にお願ひしますとしております。

次に、投稿指針です。中には返信などのコミュニケーションをとらせていただくことがあります。

次に、返信指針ですが、個人の見解となります。

次に、免責事項ですが、これはフェイスブックページによくあるパターンですから、省略させていただきます。

次に、削除基準です。本ページを運営者は、ユーザーの皆様と自主性と善意を信じた関係づくりを目指していますので、原則として投稿は削除しません。ただし、以下のような内容については、予告なく削除する場合がありますので、あらかじめご理解くださいということです。

犯罪、知的財産、プライバシーに関する内容、法令違反、特定の個人、法人、国、地域を誹謗中傷したり差別するものです。今ごらんいただいた中で、札幌市の公式のホームページでは、商品が販売されましたということは出せません。全く無関係な商品はいかがかということで、削除する場合があります。また、独断的、断定的表現がある内容です。また、このページの内容と全く無関係なもので、自己宣伝ですね。そして、必要以上に感情的だと判断される内容のものであります。

次に、禁止事項です。なりすまし、特定の個人、法人など、それらの人格に対する誹謗中傷行為、政治活動、選挙活動、宗教活動にかかわるものです。以下は、ID関係の話です。

次に、基本情報へのアクセスについてです。ユーザーが本ページに登録して下さった

場合、「いいね！」を押してくれた、あるいは、投稿してくれた、フォローしてくれた場合、本ページ運営者は、本ガイドラインに同意していただいたものとみなすということで、これも明記しております。

次に、運営です。運営は、札幌円山動物園市民動物園会議です。質の高い情報を皆様と共有するため、行政機関、市民、来園者、企業、団体などと協力して、実質的な権限を持ちますということで、行政機関の一つとして円山動物園も入っております。

○金子委員長 多分、フェイスブックに余りなじみのない方は、全体像が少しわかりにくいかという気はするのですが、いかがでしょうか。今のお話の中で、ちょっとわからないとか、この辺はどうなのだろうとか、そもそもどういうものなのかというところはございませんか。

○原田顧問 これは、市民と動物園とのかかわりが活性化されていくと思うのです。それは非常にいいことです。というのは、市民がこうしてもらいたいという意向もどんどん伝わってきます。それをフェイスブックの上でみんなが共有していくというところがありますね。ただし、動物園に対しての意見として、結構辛辣な意見が出てきた場合に、これを運営しているのは市民会議ですね。市民会議が受け取っても、市民会議は動物園の運営主体ではありませんので、その意見はどうなるのかということです。受け取った意見を動物園に流すのか、あるいは、市民会議は独立主体であり、動物園とは直接に運営上のかかわりはないというふうに考えると、この市民動物園会議自体で判断して返答して構わないということになりますけれども、動物園の運営上の事柄に深く関与してくると、そんな勝手なことを言ってもらっては困るということが動物園の主体者側の言い分にもなってくるのではないかと思えるのです。

つまり、市民会議と動物園の組織上の問題です。また、フェイスブック上に掲載されてくるコンテンツ内容に関する責任の主体はどちらにあるのかという問題をはっきりしておいたほうがいいと直感的に感じたのですが、その辺の見解をお聞きしたいと思います。

○事務局（小山調整担当課長） まず、コンテンツにつきましては、画像提供は全部円山動物園ということで、画像提供した主体は円山動物園としております。それから、意見、要望については、公式なサイトからお願いしますというふうに基本データのところに書いておりますので、削除になるのか、その辺は、トライ・アンド・エラーでやってみないとわからないところがあります。

○小山委員 動物園自体も投稿者という位置づけでいいのではないのでしょうか。ですから、この情報と説明のところ、動物園からの投稿もありますよということを明記しておいたほうがいいのではないかと思います。動物園からの投稿もあるということにしておいて、動物園はこれに投稿して、フェイスブック上に意見を出すこともできますし、情報を発信することもできます。逆に言うと、多くの人がスマホやタブレット端末を持って来るのです。そのフェイスブックの投稿が活発になれば、今、園内で放送している何々タイムが始まりますよということも投稿できるわけです。そうすると、それを持ち歩く人にスマホを非

常によく使っている人がいますから、そういった情報も見られる感じになればおもしろいと思います。

逆に言えば、動物園の意見というのが中についても意見交換は動物園とほかの投稿者のやりとりがフェイスブック上でやっているという位置づけでいいのではないですか。

○野村委員 ただ、この間、フェイスブックの話になったときに、動物園として、市の機構上、フェイスブック上でぱっとコメントするふうにはできないということで、市民会議が立ち上げてという話になったのですよね。

○小山委員 問い合わせに対するお答えはフェイスブックに書けますよ。

○野村委員 でも、それをしてしまうと、動物園の公式見解として、またいろいろなことになって、スタートする時点では動物園としてはハードルがかなり高いものになってしまうので、市民会議という立場で、動物園はそれをよく見て利用して、情報提供はするけれどもという形にしないと、またすごくハードルが高くなってしまうのではないですか。

○中山委員 恐らく、辛辣な意見とよい意見とどちらが来たときも、質問であった場合に、仮に回答するとしたら、ご意見はこちらからお寄せくださいという基本情報に書いてある本来の場所をお伝えするとともに、もしプラスで書くのであれば、いただいた意見は市民動物園会議から動物園にお伝えし、今後の参考にさせていただきますと書くにとどめるしかできないと思います。

○野村委員 そういうふうにマニュアル化していかないと、すごく難しいものになってしまいます。

○小山委員 動物園から書き込んでいくものは。

○中山委員 NGなのですね。動物園としては書けない。

○小山委員 全く書かないのですか。

○金子委員長 主催者側に入った動物園は書けないけれども、第三者の動物園がいわゆる投稿をして、フェイスブック上の横の運営主体者とは違う意見として何がありますよというものを動物園としてぼんと入れるのはありだと思うのです。

○小山委員 イベント情報の告知などでそのフェイスブックを使うことは可能ですね。

○野村委員 告知はあると思うのですけれども、つぶやいた人とのやりとりは難しいのではないですか。

○金子委員長 そこがまだ整理されていないところがあって、組織として、円山動物園という名前でもぼんと入れることができるのか、イベント情報であれば円山動物園という形で第三者の投稿という形で入れるのはありだと思うのですけれども、それをつぶやくときに感情が入ったようなことを動物園の名前で入れるとすると、そこはいろいろと難しいところがあるのかなという気がするのです。

小山さんの個人名などでぼんと入ることはあるのかもしれませんがね。

○事務局（小山調整担当課長） 私が、一市民であり、動物園に勤務する職員として何かを入れることはあるかもしれませんが。それに対して、組織ではなくて、個人的にリアクシ

ョンということはあるかもしれません。

○野村委員 フェイスブック上でも、ネットの炎上というのは、こんなことでこうなるのかということをよく聞きます。ですから、こういった場所の場合は、よくよく考えて、できるだけそういうことがないようなことから始めていったほうが良いと思います。動物園としての情報は市民会議を通じて出すけれども、そこにリアクションするようなことではないほうが、最初としては安全なのではないかと私は思います。だから、情報提供を円山動物園はありけれども、何か言ってきたことに対して答えるというのは、最初からなしにしてしまったほうが良いと思います。本当はそれもできれば、より活発にいろいろなことを吸い上げられるのかもしれないけれども、どうなのかなと思います。

○金子委員長 そこは非常に重要なところかと思えます。

○小山委員 意見に対しての反論やお答えはなかなか難しいけれども、問い合わせに対する答えもなしですか。何々がありますかという書き込みに対する答えですね。

○野村委員 それは、問い合わせに対して知っている人が答える形でよくて、動物園でなくてもいいわけですね。

○小山委員 逆に言えば、一番情報がわかっているのは動物園ですから、動物園の人が書き込むと、レスポンスが一番速いですね。そういう意味では、書き込みも実名主義だから、誰が書くかということになってきますね。

○高井副委員長 今の話だと、恐らく、責任は最小限にして、市民会議としては余り答えないということなのかという気がします。まず、これは合意しなければいけない問題だと思うのです。それから、オペレーションをだれがやるのかということ。それを市民会議の名前で事務局の人がやるのか、それとも市民会議の人が回り持ちにするのかということも今議論しなければいけないことだと思います。あとは、当初立ち上げてみなければわからないということですが、試行期間をいつに置いて、それをいつ見直すのかということも今決めなければいけないと思うのです。この2時間の中で決めなければいけないことを決めたほうが良いと思います。

○金子委員長 今の高井委員の問題点について、どういうお考えかというところを聞かせていただいて、皆さんと議論できればと思います。

○事務局（小山調整担当課長） 2点ございます。

まず、実際の維持管理をどうするかということと、責任の所在という話があったと思います。

まず最初のほうにつきましては、市民動物園会議ということですが、実際は、私もしょっちゅう見るという気持ちでおります。ですから、これは削除の対象になるかもしれないというものがあつたら、明らかにこれは違うというものは削除できますけれども、微妙なものについては、ご相談になると思います。

それから、発言責任の所在ですが、動物園としてこんなイベントをしますよというときには、一投稿者としての発言責任は私個人になると思うのです。もしやりとりがあるので

したら、一個人としてのやりとりになるかと思えます。

とある水族館で、炎上したことがありまして、以降、レスポンスは一切しないというスタンスをとりました。それもありがたないという気がします。市民間、来園者間、関係者間に完全に委ねてしまうということですね。

○金子委員長 まず責任問題ですが、いろいろな要望や意見や批判についてだれが責任を持って答えるかということですが、これについては、いろいろなご意見やご提案は市のホームページ、あるいは、市の窓口に行ってくれということで一義的にフィルタリングをするということです。そして、市民動物園会議として答えられるものについては、市民動物園会議の責任で答えていくということです。ただ、その際に、炎上という問題が起きたときには、市民動物園会議として、私が議長ですので、来年も私が続けることになれば、私の責任で対応させていただく形になると思えます。今、事務局から言われたように、無視をすとか削除すとか、そういうオペレーションが必要なのかと思えます。そういったものについては少しマニュアルを用意しておく必要があると思えます。

ですから、繰り返しになりますが、ものによっては市にお願いし、ここで対応しなければいけないことにつきましては、市民動物園会議が責任を持つのですが、それをこういう会議をしながらどうしましょうかというふうにはできませんので、私に任せていただいて、市民動物園会議の事務局と相談させていただきながら対処するということがかでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子委員長 それでは、責任については、そのように整理させていただきます。

それから、オペレーションについてです。誰が運営、管理をしていくか、あるいは、誰が情報をここに載せていくのかということについては、市民動物園会議に参加されている方にどんどん発信をしていただきたいということもありますけれども、かなりの部分、市民動物園会議の事務局が負うところが大きいと思えます。ですから、事務局のみならず、動物園の方々に市民動物園会議の参加者という形で、イベント情報を含めて情報をどんどん発信していただく役割を担っていただくことになると思えます。そういうように情報がどんどん発信されていけば、一般の方々からのリアクションもあり、そういうことをきっかけにして、いい方向で盛り上がっていくことができるのではないかと考えております。

多分、皆さんはお仕事をお持ちだと思いますので、皆さんに運営の主体をお願いするのはかなり厳しいところがあります。ですから、こちらについては、円山動物園として出させていただくのではなくて、円山動物園にお勤めの方々に市民動物園会議の一員としてどんどん情報を発信していただくということをお願いできればと思えます。

ただ、これもやってみなければわからないところがあります。高井副委員長から先ほどお話がありましたが、いつまでにどういう形でやっていくのかというスケジューリングですが、私としては、市民動物園会議でこれを発信する、あるいは、つくりましたということをご自分で決めていただいて、とりあえずは年内に試行的に、資料にある規約にの

った形で運用させていただきます。そして、次の市民動物園会議はいつごろになるでしょうか。

○事務局（見上円山動物園長） 今の予定では、年末の12月ごろです。

○金子委員長 それでは、今ここで決めていただければ、とりあえず公開して、あとは次の委員の方々に見ていただいて、問題点があれば、そこで修正しながら、第2フェーズと申しますか、公式バージョンと申しますか、そういうふうにしていくことでいかがでしょうか。

○松浦委員 私は、前は欠席して議論を聞いていなくて申しわけありませんが、今はフェイスブックをやっておりません。しかし、これからはやっていくことになると思いますし、投稿していくことになるだろうと思うのです。市民動物園委員ではない人で、市民の方々がこの動物園会議の委員に託す願いというものが、当然、フェイスブックに出てくるものだと思いますので、苦言を全部シャットアウトしていくような態度では、この市民動物園会議が主催していく価値がないと感じました。ただ楽しいねという乗りでやっていくのだったら、大して意味がないのだろうと思います。ある程度きちんとした姿勢で、市民の声としてきちんと取り上げるべきものは取り上げるべきだというものがあってしかるべきだと思います。

○金子委員長 松浦委員のご意見について、いかがでしょうか。

○原田顧問 全く正解だと思うのです。そもそも、市民動物園会議というのは、市民の声を聞く、今までの動物園のやり方でやってきたこととか、そこに足りないもの、あるいは、市民がこうしてもらいたいというものを積極的に取り上げる窓口になって、それを検討する会議ということだと思うのです。できないことはできないことで結構だと思うのですけれども、その窓口になっている市民会議がこれを理解してフェイスブックをつかって、今度はメディアという形で市民の声を集めて、いいものは動物園の中にどんどん取り込んでいくということですね。それを取り込んでいくかどうかの決断は動物園が決定をすることであって、ここは、それを提案していく場であろうと思うのです。

ですから、そういう仕分けがきちんとできていれば、どんな苦言でも受け取って、それをそのまま動物園に投げるということではなくて、これについてはとても背負い切れないので、何も言わないで済ますということもあるかもしれませんが、多くの問題については、いいものであれば動物園側に、この市民会議を通して提言をしていくということです。何でもかんでもフェイスブックに載ったものを動物園に投げかけるのではなくて、ここが一つのフィルターになっていくことで、市民動物園会議そのものが活性化していくのではないかと思います。

○中山委員 まず、今おっしゃったような苦言なり意見なりがあったときの対処ですが、答えたことが正解ではないことがあって炎上していくと思うので、もちろん動物園としての公式見解は絶対できないと思うのです。私は市民動物園会議の委員です、こうこうこうですと答えるけれども、それを後から済みません、間違っていましたと言えらる状態ではな

ればいけないのです。訂正するときは、済みません、私は間違っていました、実はこうでした、変更があってこうでしたと、最後まで責任を持つことを踏まえて返答するというのがあると思うのですけれども、余りにややこしくなるので全部なしにするというのも一つの手だと思います。ただ、そういう苦言なり意見の投稿があったときに、何もないのではやった人のやりがいもないし、レスポンスもないのはいけないと思いますが、コメントで、そうだよ、こういうところが私も嫌だと思っていた、そして、コメントが盛り上がったものをしっかり酌み取って会議に持ち込んでいるのだなということがわかるようになっていけば、コメント欄で返信しなくてもいいと思うのです。

例えば、次回の会議は12月に予定されており、フェイスブックで寄せられたご意見はまとめて会議でこのように報告します、もしくは報告しましたという報告が普通に文字だけの記事で定期的に投稿されるとか、本来の問い合わせフォームに誘導する投稿も定期的に出すとか、ツイッターでもそうですけれども、例えば、テレビ塔のテレビ父さんの発言も、スタッフ的にやっつけていらっしゃる場合も、この発言はテレビ父さんの個人の思いであり、テレビ塔の意見ではありませんというものが定期的に流れるのです。そういう免責の投稿ではないですけれども、それも定期的に出しつつ、やっている人を見て、こんな意見が来ているのだと把握するのも単純によいことだと思うので、それを会議に持ち込むという流れをつくれたらいいと思います。世の中にある意見を言うフォームに、すごく盛り上がっているものの中では、お願いが実装されましたという報告が出ている。例えば、何か達成されたときに、本当は別のところから来た意見かもしれないのですけれども、ここでも上がっていた意見が晴れて実装されましたという報告もしていけるようになれば、ここに出した意見はちゃんと伝えられていて、精査されて、よいものは通るのだという場所に見えるようになっていたら、一つ一つの記事へのコメントはしなくてもいいのではないかと思います。

○金子委員長 ありがとうございます。

○野村委員 松浦委員や原田顧問がおっしゃることはそのとおりで、市民会議のあり方として必要なことだと思います。しかし、フェイスブックをやったほうが良いという話になったのは、今、フェイスブックをリアルタイムに利用していて、いつもとは違う猛禽類の何だかをやるようだと流れてきたときに、すぐにリアクションするというのを若い人たちはみんなやっていて、それをどう活用して、より動物園に新しい人が来てもらうかということで、ぜひやりたいねという話になったと思うのです。ですから、フェイスブック全部に市民会議の役割を負わせるより、新しいニーズの開拓の試みとして、市民会議が応援という形でやる位置づけです。もちろん、今おっしゃったように、ご意見は市民会議で活用しますというものが時々流れるようにして、逃げかもしれませんが、そこでいろいろな難しい意見を余り取り上げないで、それは本来のところに誘導して、あくまでもリアルタイムの動物園の情報を流すツールとして割り切って運用し始めるのがいいと思います。言い方としては、無視するのではなくて、そちらの意見を酌み上げるところは、その

中からもわかるようにすればいいかもしれません。

前に、市民動物園会議に苦情がありましたね。あれは、札幌市のホームページの会議録を読んで来られたわけですね。今、市民動物園会議へのご意見というような窓口は、動物園のホームページにはありませんね。

○事務局（見上円山動物園長） ないです。

○野村委員 動物園のご意見というページもありませんでしたか。

○事務局（見上円山動物園長） それはあります。

○野村委員 それが必要なら、市民会議へのご意見でもいいと思うのですけれども、別の窓口でそういうご意見が来るということでもいいと思います。

まず、フェイスブックでは、これから子どもを産むような若い人が今は活発に使っていると思うのですが、そういう人たちがリアルタイムで、この辺にいるので今から行こうかという人をどう取り込むかという話からだったように思うので、できるだけそれを生かす運用をしてみたいということかと思えます。

○金子委員長 ほかにいかがですか。

○高井副委員長 私も野村委員の意見に賛成です。松浦委員のおっしゃることももったいなのですけれども、オペレーション的なところでキャパを超えるのではないかと思います。それは理想ですが、初期の段階では、楽しいことを共有するツールとして開始してみると。現段階では、フェイスブックでシロクマを見たよ、楽しかったみたいなことをあちこちで言っているけれども、それをつなげるツールが今まではなかったわけです。それをせっかくやっているのだからつなげましょうというのがそもそもの趣旨だと思うのです。

リアクションは三つあって、返信するというのが一番重いもので、2番目には「いいね！」をつけるということです。3番目は、削除するかどうかを決めるということがあると思うのです。私の個人的な考えとしては、オペレーションの負担として、毎日見て削除するかどうかを決めるだけでもいっぱいいっぱいだと思うのです。「いいね！」をつけるのも結構大変で、一体どこの基準で「いいね！」をするのかという全体の合意をとることはできないし、返答するとなると、さらに難しくなってきます。ですから、「いいね！」も返信も市民動物園会議としてはしないというふうにしていくのがいいと思います。また、厳しい意見があったときに、削除するのか、とりあえず、そこに置いておいて、「見ているよ」ということだけは示しておくというふうにするのかは、今考えるべきことかと思えます。

○金子委員長 今、皆さんからいろいろなご意見が出されました。松浦委員のお考えも原田顧問のお考えも、僕もまさにそのとおりだと思うのですけれども、今、実際に動いていない中でどうしましょうということをコンクリートに決めてからスタートしても、いろいろなケースが出てくるのではないかと思います。

ですから、私としては、まずスタートしてみて、必要最低限のルールですね。今、高井副委員長が言われた、この辺の削除ルールをどうしていくのかという今の段階で決めなくてはいけないことをきちんと決めて、スタートして、様子を見ながら微修正していく形で

進めてはどうかと考えております。

また、今、この場でもいろいろな議論が出ていますので、きょうだけで議論を終えるのではなくて、フェイスブックは一度オープンしますけれども、委員がその中で議論を始めると、フェイスブック自体がどういうふうになっていくかという問題も出てきてしまいます。しかし、この議論は非常に重要だと思いますので、準備委員会のフェイスブックもあるので、そういう中で皆さんにもアドバイザー的に入っていただきながら、こんな意見があったけれども、これはどうするのかということをし少し議論しながら、公式のフェイスブックに反映していくという感じでどうかと思います。

皆さん、いかがでしょうか。

まずは、一度、公開をしてスタートして、スタートするに当たっては、どうしてもここだけは決めておかななくてはいけないという必要最低限の部分は一応決める。私は、事務局につくっていただいた削除基準が幾つかありますので、まずは、このルールに乗っかって照らし合わせて、実際に削除するのは結構エネルギーが要するというか、この後のいろいろなアクションが出てきますので、削除するに当たっては、これは削除基準に合わせると削除ですよというときに、複数の削除審査委員みたいな人たちの合意を得て削除するというルールを少し決めておくくらいで、基準としてはこのくらいでよろしいのではないかと思います。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子委員長 松浦委員、どうでしょうか。

○松浦委員 やってみて、また十分に検討を重ねていけたらいいと思います。

○金子委員長 意見が入ってきたときに、非常にすばらしい意見もありますので、そういったときに、市民動物園会議としてうまく消化しながら次のステップに行けるように、そのものを市役所あるいは動物園のほうに伝えますという形になるのか、あるいは、何か別の形でコメントをつけ加えながら、こういう形でどうでしょうかというふうに積極的にアドバイスをしていくのか、どういう形がいいのかということはまだわかりませんが、

○野村委員 私は委員になる前に市民動物園会議があることを知らなかったのです。逆に言うと、フェイスブックで、えっ、そんな会議があるのかということになる可能性もあると思うのです。それは、皆さんの意見を受けとめる窓口を広げることにもなるから、主体で続くかどうかはこれから先はわかりませんが、その存在を知る上でもいいPRのような気がします。

○小山委員 基本的にフェイスブックは実名主義なので、そんなに頻繁に削除が行われるようなことはないと思います。普通のブログなどの無記名の書き込みとは違っていて、それぞれ発言する人が特定されるので、余り変な投稿はないと思います。

また、それとはちょっと違うのですが、説明の中で、動物園会議がこのフェイスブックページづくりを提案し、有志によって作成、運営していますという表現になってい

て、一番最後に、さっぽろ円山動物園の市民動物園会議が設置、運営しますとなっています。この場合の有志というのは、市民会議の有志ということですか。前の説明というところの有志というのは、動物園会議の有志ということに限定されるのですか。二つ目の表現と整合性がないと思います。

○金子委員長 これは合わせたほうがいいですね。後ろの運営のところは、そのまま設置、運営しますでいいような気がします。

○小山委員 逆に、有志によって運営していますとワンクッション入ったほうがおもしろいと思います。これだと、完全に市民会議が全てコントロールしているように読めますが、フェイスブックのページの存在はそこまで厳密なものなのかと。

○金子委員長 逆に、もう少し緩くするということですね。

○小山委員 緩くしたほうが楽しいと思います。スクエアな感じで、責任も含めてきちんとやれという話だったらそうなるけれども、フェイスブックページにはそこまで求められていないのではないかという気がするのです。

○金子委員長 では、次回の委員会においても、有志によって運営しているフェイスブックがありますので、ご関心があれば、ぜひ参加してくださいくらいでしょうか。

○小山委員 その運営者自体、投票で決まるわけでもないし、グレーといえばグレーですが、有志という形の運営にしたほうが楽しいと思います。

○金子委員長 設置自体は市民動物園会議でいいですか。市民動物園会議が設置し、有志によって作成、運営しています。

○小山委員 フェイスブックページの設置者はどうなのですか。明確にする必要があるのですか。

○中山委員 多分、市がかかわることになるから、ここまで堅く書いているのだと思うのです。書いていないところもあると思いますけれども、何かあったときに明確でしようと言えるように、基本情報はとても細かく書いていらっしゃると思うのです。

○金子委員長 皆さん、設置者、運営者についてはいかがでしょうか。一つは、前段と後段で文章が違うので、統一したほうがいいということです。統一するなら、有志を入れるか、入れないかですね。

まず、小山委員からは、有志という形で少し緩やかにしたほうがよろしいのではないかというご意見です。もしそれでよろしければ、有志で運営していますという形にさせていただきます。ただ、設置については、市民動物園会議がフェイスブックページをつくっているということですね。有志がつくっていますと言うと、またふにゃふにゃになってしまうので、設置については動物園会議が設置して、有志によって運営していますというぐらいいがよろしいと思います。これは個人的な意見ですけれども、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子委員長 動物園のほうはよろしいでしょうか。

○事務局（見上円山動物園長） はい。

○金子委員長 それでは、そういう形にさせていただきたいと思います。

最初に戻って、今回の市民動物園会議で設置し、有志によって作成、運営したフェイスブックページをこの場で決定していただければすぐに公開するという事によろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子委員長 期間についても、次回にこの間の状況を報告させていただいて、また見直しを図っていくということによろしいでしょうか。

○高井副委員長 一つだけ確認するとしたら、試行期間の間に炎上したときの決断です。削除というのが一番大変だと思いますが、今の段階で何とも言いようがないので、とりあえず、委員長一任として、市民会議で設置しているということだから、もしその負担がすごく大きくて、第三者的にやらなければいけないとなったら、次回の委員会でまた考え直すということではいかがでしょうか。

○金子委員長 よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子委員長 実際に削除するところは、かなりエネルギーが要ると思うので、この先も全部一任となってしまうと少し厳しいところもありますから。

○中山委員 意見ですけれども、準備委員会のグループがあるので、ガイドラインに沿って削除しますというものが出来て、そこで2人以上から、コメントだとちょっと負担なので、「いいね！」が入ったら、もう消しますよというものを一つ決めておけば、すんなりいくと思うのです。毎日フェイスブックを見る人がない人もいますが、みんな積極的に見ましようというスタンスだとして、明らかな投稿がありました、これは消しますといったときに、グループ内で二つの「いいね！」がついたらもう消しますなり、三つでも五つでもいいのですが、そういうルールにしておいたら、1人で消したものではないですし、ちゃんと意見を取りまとめて消したというルールができたらいいかなと思います。

○小山委員 今、中山委員がおっしゃったのは、フェイスブックページと別にグループページをつくるのですね。クローズドのグループページで、特定の人だけでやりとりをするということですね。

○金子委員長 そうですね。

○中山委員 仮に、出張などで全然見られなくて、別の委員が発見したときも、同じ方法でやれば、できるだけ迅速に行動できると思うので、見つけた人は、そのような形で削除の許可がおりるといったルールはどうかと思います。

コメントに関しても、基本的に削除は反対です。

○小山委員 本当にわいせつ表現や、明らかな個人の誹謗中傷の場合はあれですけれども、一般的な意見なり批判なりは基本的に削除するべきものではないです。

○金子委員長 先ほど、原田顧問、松浦委員からも出ていましたけれども、苦情に近い意見も来ると思います。そこは許容といいますか、受けとめて、さらにいい方向になるよう

な形に誘導していくというか、そういう方向に行くような形でやっていくということもフェイスブックの役割としてあると思います。

○原田顧問 先ほど、私の意見は責任ということで言われましたが、フェイスブックに寄せられるいろいろな意見とか、とてもいい意見が結果的には圧倒的に多いと思っております。ただ、クレームがついたときに、即、動物園サイドとしての意見がここに載るようでは、フェイスブックで何も意見を言わなくなってしまうと思うのです。ですから、動物園サイドとは分離した形で、むしろ公式な意見はそちらに行って聞いてくれぐらいの立場で、余りここで炎上するような戦いをしてはいけないと思います。これは、市民の場でいいのではないかと考えております。動物園の人たちが個人の立場で参加していますといっても、余りにも専門的なことをきちんとと言われてしまうと、市民の側としては、我々の出る場所ではないなと敏感に感じ取られると思うのです。ですから、この場というのはあくまでも市民の場として、それを運営しているのは市民会議だというぐらいははっきり割り切って展開すべきだと思います。動物園が危なくなるということになると、大変だなと思います。

○金子委員長 結局、動物園を応援するページであるというところの認識は皆さん一緒だと思います。プラスという名前をつけたのも、動物園をプラスアルファしていこうということで、動物園とか市民動物園会議だけではなくて、もっと広く地域も巻き込みながら、今まで動物園とは関係なかったような人たちもどんどんプラスアルファしていこうという趣旨で運営できればと考えております。

大分時間がたってしまいましたが、フェイスブックにつきましては、市民動物園会議で設置して運営を開始し、次回の新しい委員会の中で見直しをかけていくという決定でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○金子委員長 どうもありがとうございました。

それでは、新着動物等について、報告をお願いします。

○事務局(柴田飼育展示課長) 資料4でございます。

主な出産の関係ですけれども、エゾリス、エゾモモンガ、エゾユキウサギといった皆さんこの動物がことしも順調に繁殖しました。

主な転出ですが、シシオザルが埼玉の大宮公園小動物園へ、ダイアナモンキーが広島の安佐動物公園に転出しております。

主なものだけご紹介をしました。

○金子委員長 ありがとうございました。

こちらにつきましては、よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 それでは、その他ということで、園長からお願いします。

○事務局(見上円山動物園長) 前回の会議の中で次期の委員の選定の考え方について説明させていただきました。しかし、今さら申し上げるまでもなく、市民動物園会議は、動

物園の基本構想と、それに基づく基本計画でこれに沿ってきちんと運営がなされているのかどうかについて皆様から審議をいただくために、設置したもので、現在の基本計画の改定に当たりまして、皆様からいろいろとご意見をいただき、ご審議をいただいたということでした。また、今後の計画の進捗状況についても皆様に確認をしていただきたいという思いから、現在の委員につきましては、原則的に再任をさせていただきたいという考え方を前回の会議の中でお話しさせていただいたかと思えます。ただ、公募委員の方につきましては、市民参加の機会の拡大という別の観点から、改めて公募を行いたいという旨のご説明をさせていただいたと思えます。

そこで、現在の皆様がそろっての会議は本日が最後でございますので、委員の皆様からお1人ずつご挨拶をいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

なお、まことに勝手ではございますけれども、お手元にお配りしております名簿に記載している順番でご発言をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○金子委員長 それでは、私からですね。

皆さん、長いこと、どうもありがとうございました。私自身は、アイスクリームの縁というか、2008年に円山動物園と酪農大学で包括連携協定を結ばせていただきまして、それから学生の環境教育の場を提供していただきましたり、動物園方々に本学に来ていただいて講義をしていただいたりということで、この5年間でいろいろなおつき合いをさせていただいた中で、市民動物園会議に参加する機会を与えていただきまして、本当に感謝しております。

今までは、表面的なといいますか、包括連携協定の中でおつき合いしていた中とは全く違ったところをこの会議の中で知ることができ、また、今回、基本計画の策定やアジア館のオープンという非常に重要なときに立ち合わせていただきまして、本当に感謝を申し上げますとともに、私自身、本当に大変勉強になりました。

また、きょうの会議の議論のように、大学の会議ではないような白熱した、忌憚のないご意見をいただける場に私自身も参加することができて、大変うれしく思っております。

私は、また次回も市民動物園会議にかかわっていくことになると思えますけれども、公募委員の皆さんとも、これから動物園のよりよき未来に向かっておつき合いをさせていただければと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

どうもありがとうございました。

○高井副委員長 高井です。

私自身の円山動物園との出会いは、以前、行政評価委員会の委員をしております、こちらに問題があったときに出会ったのが出発点になりますが、そのときと比べて、努力をされて、指標の数でも成果が出ているし、皆さんがどれだけ努力してきたのかということもよくわかって、非常に感銘を受けております。

また、この委員会自体、とても闊達に意見交換が行われる自由な場所として、私自身も非常に勉強になりました。とてもよい機会だったというふうに皆様にも感謝を申し上げます。

す。

どうもありがとうございました。

○石川委員 石川です。

公募委員ですので、皆さんとお会いできるのはきょうが最後になります。

最初の会議のときに、当時の来園者数の数字を見せられて、少ないのだと言われて、私自身に何ができるのだろうと家に帰ってもう一回グラフを見て、少ないなと思っていました。でも、きょうの最後のときに、とてもいい数字を見せていただいて、私は何をやったというわけではないのですけれども、気持ちよく任期を満了して帰れるなと思いました。本当にいい数字を見せていただいて、ありがとうございます。

私自身は、もう一回来たい動物園にしてほしいと最初に申し上げました。先ほど、リピーターだけではだめですよという話もありましたが、やっぱり一母親として、一回終わりということではなくて、子どももどんどん成長していきながら、1年生のときの子どもと2年生のときの子どもと見る視点が違うので、では、また円山動物園に行こうかというふうに言われるような動物園にしていっていただきたいと思っております。

その中で、たまたま私の子どもは爬虫類が好きで、爬虫類館がオープンして、本当に何回も行かせていただきました。親としては、同じ動物を見て何がおもしろいのだろうと思うのですけれども、本人にしてみたら、毎回、見るところが違うようで、本当にいい思いをさせていただいています。また、アジアゾーンも、親としては、寒くないし、暑くないし、とても快適なところですよ。

これから100万人を目指してぜひ頑張っていってほしいと思います。本当に貴重な時間をありがとうございました。

○小山委員 小山です。

2年間、非常に貴重な体験をさせていただいて、本当に感謝しております。

動物園は動物を見る場所ですけれども、動物園会議に参加することで、動物園で働いている人とたくさん接することができて、動物園の中の顔がいろいろ見えてきまして、逆に動物園に対して新しい見方ができるようになって、もっと楽しくなったと思っています。

個人的には、年間パスポートを買ったというのが私の最大のプラスです。

○中山委員 中山です。

私も、市民動物園会議に参加して初めてこのことを知りましたが、とても身近に感じるようになって、一ファンとしてとても楽しい思いをさせてもらいました。いろいろ生意気な意見も言って申しわけなかったのですけれども、新しい風が入れればいいなと感じておりました。企業だとできることが行政だとこれほど難しいかという勉強にもなりましたし、その上で何ができるのだろうという今までになかった考え方を教えてもらったと思いました。

どうもありがとうございました。

○野村委員 野村です。

この2年間、いい機会を与えていただき、大変勉強になりましたし、楽しい時間を過ごさせていただきました。

私は、ここから歩いて10分ほどのところに住んでいるので子どもが小さいときからここに来ていました。そして、子どもが大きくなってからこの15年ぐらい来てなかったのですが、この2年間で、「あれ、また来ているよ」と言われるぐらいここに来ましたし、イベントにも参加させてもらいました。この間のスムージア ZOO Nightも、東京から友達がそのためだけにわざわざ来たのです。でも、来たかいたがあったと、カンガルーに感動して帰って行きました。この委員になったことで、本当に身近に動物園を感じるようになりました。これからもずっとサポーターでありたいと思っています。

私の中で一番驚いたことは、私の夫が友人と出かけるときに、「動物園は大人同士で行ってもおもしろいのか」と言うので、「絶対おもしろいから」と言ったら、同じ年ぐらいの3人で行ったのです。「俺たち大人だけで行ったけど、すごくおもしろかった」と言って、年間パスポートを購入していました。あの3人がここに来て喜んだということは、誰が来ても喜ばれるというお墨つきのような感じなので、本当にそれが最大の成果です。

これからもPRの一助をさせていただければと思います。

本当にありがとうございました。

○橋本委員 2年間、本当にお世話になりました。

40年ぐらい来ていませんでした。恐らく、12歳のときの遠足が最後で、大体40年は来ていなくて、この2年で3回か4回、それ以上来ています。本当に変遷に驚いたところでした。

私は、札幌商工会議所観光部会長という立場で、いわゆる充て職的な感覚で来ておりましたから、この次に3年に1回の改選があるので、次に観光部会長に私になるかどうか分かりませんが、できれば、観光部会長にならなくてもかかわっていたいという気持ちがあります。ただ、組織上の問題ですから、もしならなかった場合は新たな観光部会長が来ると思います。その辺は、ご了承いただきたいと思います。

一番の驚きは、先ほど小山委員がおっしゃっていましたが、動物園で働いている方は素晴らしいと思います。まさにプロ、職人と言っても過言ではないと思います。現実に日本でこの人しかこういう資格を持っていないとか、この動物を見るのだったらこの人がすごいよとか、この飼育をさせたらすごいのだよという話をいろいろ聞きましたので、本当にプロの集団なのだとなんとなく感じております。その資源をそのままにしておくのは非常にもったいないです。もっともっとオープンにしていくべきだというのが心から思った感想でございます。

本当に40年ぶりに来た動物園でございますけれども、大変楽しい2年間でございます。皆さん、どうもありがとうございました。

○牧野委員 円山の西町に住んでいる牧野と申します。

私がかかわってほぼ10年になります。園長も3人目です。もっとさかのぼると、今、

うちの町内会に金澤さんという元園長が今もお住まいになっています。地域からこういう交流の場に参加して、また地域にどうやって携えていけるかということで、今回、参加させてもらいました。

私どもは、町内会でいろいろな声を聞きます。特に、お年寄りが、動物園に来て、その動物を見てほっとしている部分をよく聞くのです。今、犬も猫もなかなか飼えない中で、こういうふうに動物園まで足を運んで、そこでほっとするという話も聞いております。そういうことで、見守りということが我々町内会に課せられている部分もございますので、そういうところも含めて、円山動物園のPRを今後もずっと続けていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○松浦委員 松浦でございます。

私は、40年間、集団の子ども連れでここに通い詰めたということと、指導者を養成していくために、幼児の指導者が動物園を知らないということがないように、先生になって初めて動物園に来たなんてことがないようにということも含めて、とても関心がありましたので、この委員に公募しました。2年間、本当にありがたいことばかりで、非常に楽しかったです。

本当に裏のほうも、先ほどおっしゃっていたプロの方たち、それから、動物園をいかに盛り上げていこうかという皆様の努力や奮闘ぶりを陰ながらわかることができ、感謝いたします。

そして、私は、この2年の間に孫までできまして、一回、その孫を背負って連れてきてみました。雪の中を連れてきてみました。本当に5カ月ぐらいのころから何回も来ました。自分で歩く幼児ではなくて、赤ん坊を連れて歩く動物園も体験させていただいて、先ほど柴田課長にお伝えしたのですけれども、冬はそりが要るよねという話をしたり、外からわいわい言っております。

本当に動物が好きで、アフリカに行ったときに、大草原を見てきました。そこにいるカバは真ん丸で、お腹の下がピンクで、物すごい勢いで大草原を走って、じゃぼんと池に飛び込むのです。そういうのを3日ぐらい見ました。その感動と動物園のことを思い出して、本当に動物たちもご苦労さまと、この狭いところで生き生きと暮らしてほしい、そのために、さらに動物園の皆様の活躍をお祈りしたいと思います。皆様と知り合いになれたことも本当にうれしゅうございました。

ありがとうございました。

○原田顧問 原田でございます。

私は、リスタート委員会という動物園の再生構想をつくることから始まりまして、この市民会議に参加させていただきました。その中で、私は8年くらいかかわっているのですが、動物園の飼育員の方々のすごい愛情というか、動物園をつくり上げていこうという意欲が非常に強くて、熱いものを感じました。

私も、動物園にかかわることになりまして、学会や国際会議があるたびに、ちょっと抜

け出してその国の動物園に行っております。スウェーデンの本当に雪深いところの動物園がどうなっているのか見たくて見たくて、300キロメートルぐらい離れたところにあるのですが、行ってびっくりしました。そこは、お金を余りかけていなくて、50%以上が寄附金という恐るべき動物園で、お金がないけれども、やっつけられるのですと結構のんきなことを言っているのですね。それも、暖房を必要としないのです。北方の動物だけを入れているのですね。人が歩くための木道だけをつくって、あとは原始林です。ですから、ほとんど動物が見えないのです。どこにいるのかよくわからないのですけれども、みんな想像して楽しんでいる、声が聞こえるとそれだけで喜んでいて、そんな動物園もあるのかと思いました。

そういう意味では、円山動物園は、本当に至れり尽くせりで、暖房はがんがん入るし、寒いところは寒いところで、だから、私が初めてきたころに、雪の中にラクダがいて、それが影を落としているのです。夕方だったのですけれども、青いラクダの影が雪の上に写っている姿を見まして、すごいところだなと思いました。だから、砂漠の砂のかわりに雪があるのです。これを中東の国王あたりがごらんになったら大感動するのではないかと思います。動物園のリスタートのときに、ぜひ見てくださいということで来たら、そんな風景を見まして、そのショットだけでこの円山動物園は価値があると、非常に強い感動を覚えました。そのラクダはとうとうどこかに引き取られてしまったようで、私はどんなに寂しかったかということ誰もご存じないと思いますけれども、そういう寂しい思いをしました。

私は、第1期の基本構想から基本計画ができ上がったのを見届けたということで、今回をもちましてこの席からおろさせていただくことになりましたけれども、大学全体が動物園のサポーターとして今も働いておりますし、いろいろなことに関与してサポーターになっておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひしたいと思います。

ありがとうございました。

○金子委員長 どうもありがとうございました。

もう一回やりたいような感じですが、時間が来てしまいましたので、事務局にお返ししたいと思います。

○事務局（見上円山動物園長） 次回の会議は、先ほどもちょっとお話をさせていただきましたけれども、12月を予定しております。また具体的な日程が決まりましたらご連絡させていただきます。

3. 閉 会

○事務局（見上円山動物園長） この2年間、本当にいろいろとお世話になりました。今後とも、どうぞよろしくお願ひします。

ありがとうございました。

以 上